

終了後回収	
研修生 番号	

令和3年度 専科（第48期） 試験問題

【財務諸表論（個資徴班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
 ≪持込みが許可された筆記用具等≫
 ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
 鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
 プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
 電卓（演算機能のみを有するものに限る。）
 腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 答案用紙の追加配付は行わない。
 書き損じた場合は、使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 試験問題の内容に関する質問には応じない。
 印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

正規の減価償却について、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 正規の減価償却について、①その目的と②効果をそれぞれ簡潔に述べなさい。

問2 次の設例に基づき、2020年度期首に購入した掘削機の2020年度の減価償却費を生産高比例法に従って計算しなさい。

〔設例〕

A鉱区の鉄鉱石採掘予定数量は40,000トンであるのに対し、今年度は3,500トン採掘された。2020年度期首に購入した掘削機の取得原価は8,000,000円であった。

問3 企業会計はその特徴として、1つの資産に対して複数の会計手続を認めている。このことから、経営者は一定の目的を達成するために会計数値を戦略的に制御するとされる。①こうした経営者による会計手続の戦略的選択行動を何といいますか。②こうした戦略的選択行動を生み出す代表的なインセンティブを1つ述べなさい。

【第2問】

税効果会計について、「税効果会計に係る会計基準」に従い、次の問1から問2までの各問に答えなさい。

問1 税効果会計について、①その目的と②必要性をそれぞれ簡潔に述べなさい。

問2 税効果会計を適用することで計上される繰延税金資産は他の資産と異なる特徴を持っている。繰延税金資産について説明した上で、その特徴を述べなさい。

【第3問】

主として貸借対照表の貸方に計上される引当金について、次の問1から問2までの各問に答えなさい。

問1 引当金には評価性引当金と負債性引当金の2種類がある。それぞれについて述べなさい。

問2 引当金の設定要件について、次の(①)～(③)を埋めなさい。

- (1) 将来の費用又は損失の発生原因が特定していること
- (2) その費用又は損失の発生原因が(①)の事象に起因している
- (3) その費用又は損失の(②)が十分に高いこと
- (4) その費用又は損失の金額が(③)に見積もることが可能であること

【第4問】

連結財務諸表の作成について、企業会計基準第22号「連結財務諸表に関する会計基準」(以下、連結会計基準)と「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」に従い、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 次の設例に基づき、P社連結貸借対照表において計上される①のれんと②非支配株主持分の金額を計算しなさい。

[設例]

2020年3月31日にP社はS社の発行済み株式総数の80%を10,800円で取得して子会社とした。同日におけるS社の資本の内訳は、資本金10,000円、利益剰余金1,000円であった。なお、S社の資産に含まれる土地の時価は貸借対照表計上額を500円上回っているので、これを評価差額とする。

問2 連結会計基準は子会社の範囲を決定する基準として、支配力基準を採用している。これについて説明しなさい。

問3 連結会計基準は連結貸借対照表の作成にあたって、支配獲得日における子会社の資産及び負債の全てを支配獲得日の時価で評価することを求めている。その理由を述べなさい。

令和3年度 専科（第48期） 試験問題

【財務諸表論（法人課税班）】

【解答に当たっての注意事項】

- 1 机上には、持込みが許可された筆記用具等以外は出さないこと。
《持込みが許可された筆記用具等》
ペン又はボールペン（インクの色は黒色のみとし、消せるものを除く。）
鉛筆又はシャープペンシル（芯の色は黒色のみとし、B又は2Bに限る。）
プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り、定規
腕時計（通信機能を有しないものに限る。）
- 2 答案用紙の追加配付は行わない。
書き損じた場合は、使用した筆記用具により次のとおり対応すること。
 - ・ ペン又はボールペン・・・定規を使い二重線で抹消すること。
 - ・ 鉛筆又はシャープペンシル・・・消しゴムできれいに消すこと。
- 3 答案用紙のホチキスは、外さないこと。
- 4 試験問題は、指示があるまで開かないこと。
- 5 試験問題の内容に関する質問には応じない。
印刷の不鮮明等がある場合には、試験開始後、静かに手を挙げること。
- 6 注意事項に従わない答案や、解答欄を誤って記載した答案については、採点されない場合や、減点される場合がある。

【第1問】

費用配分の会計処理に関して、次の問1及び問2の各問に答えなさい。

問1 費用配分の原則について簡潔に説明しなさい。

問2 棚卸資産の費用配分について、次の①から③までを説明しなさい。

①売上原価の計算

②消費（払出）数量の把握方法

③消費（払出）単価の把握方法

【第2問】

資金調達の会計に関して、次の問1及び問2の各問に答えなさい。

問1 増資の会計処理について、次の①及び②を説明しなさい。

①形式増資と実質増資の違い

②新株発行による資金調達を公募で行う際の会計処理

問2 社債の発行について、次の①及び②を説明しなさい。

①割引発行の行われる背景

②償却原価法の会計処理における利息法と定額法の違い

【第3問】

企業会計に関して、次の問1から問3までの各問に答えなさい。

問1 会計公準と概念フレームワークの違いについて説明しなさい。

問2 負債について次の①及び②を説明しなさい。

①負債の分類

②負債の認識・測定・評価と公正価値

問3 剰余金の処分の会計処理について説明しなさい。